

(有)静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230

薬害肝炎のお話

2002年10月21日、旧ミドリ十字(現三菱ウェルファーマ・ベネシス)などの製造・販売していた血液凝固因子製剤(フィブリノゲン製剤など)の投与を受けたためC型肝炎ウイルスに感染させられてしまった被害者が、国と三菱ウェルファーマなどの製薬会社を相手取って損害の賠償を『薬害肝炎訴訟』が提訴されました。今回は、薬害肝炎についてのお話です。

Q1. C型肝炎とはどのようなものですか?

A1. C型肝炎とは、C型肝炎ウイルスの感染によって起こるウイルス性の肝炎のことで、慢性化することが多く、肝硬変、肝がんなどの主な原因となります。ウイルス性の肝炎には、C型の他にA型、B型などがありますが、C型肝炎はA型やB型に比べて自覚症状が少ないのが特徴で、C型肝炎ウイルスに感染しても、多くの場合、感染に気付かず症状を悪化させてしまいます。

Q2. 「フィブリノゲン製剤」とはどのようなものですか?

A2. フィブリノゲン製剤は血液凝固因子製剤の一種で、人の血液から作られる医薬品です。人の血液中には、出血したときに血液を固めるのに必要な血液凝固因子という成分が、何種類も含まれています。これらの血液凝固因子が欠けると、怪我をしたときや手術をしたときに血が止まりにくくなります。そのような場合に、欠けている血液凝固因子を補充し、血を止めるために使用されていたのが血液凝固因子製剤です。本来は、生まれつき血液凝固因子が欠けている先天性の病気に対する治療法として使用されていたものですが、実際には、その有用性が明らかではない後天性の病気(手術や出産時の出血、新生児出血症など)にも使われていました。

Q3. 薬害肝炎とはどのようなものですか?

A3. C型肝炎ウイルスの不活化処理されていないフィブリノゲン製剤などの血液凝固因子製剤を投与され、感染してしまったC型肝炎のことです。

フィブリノゲン製剤などの血液凝固因子製剤は数千人~2万人以上もの提供者による血漿(血液の一部)を溜めたもの(プール血漿)から作られていました。そのため、提供者の中に1人でも肝炎ウイルス感染者がいればプール血漿全体が汚染されてしまう危険性がありました。このことは1970年代より指摘されていましたが、製薬会社は、フィブリノゲン製剤を1964年から1988年頃まで、大量に製造・販売していました。1980年以降にフィブリノゲン製剤を約28万人が投与を受け、約1万人以上が感染したといわれています。しかし、判明している方はごく一部です。

次回は、『薬害肝炎訴訟について』です。

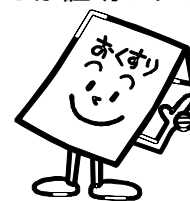
ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ)除菌治療について

胃腸の病気の代表的なものに、胃潰瘍・十二指腸潰瘍などがありますが、これらの病気の原因は従来、ストレスや喫煙と考えられてきました。ところが、最近になり、これらの病気の原因のひとつとして細菌が関わっていることがわかってきました。それがヘリコバクター・ピロリ菌という細菌で胃の中に生息しています。感染経路は口を介した「経口感染」が大部分で、日本人の50歳以上の方の感染率は約80%と言われています。でも、ピロリ菌に感染しているからと言って全員が潰瘍になる訳ではなく、ごく一部の人が発症するのですが、胃潰瘍や十二指腸の患者さんはピロリ菌に感染していることが多く(約90%)、ピロリ菌を退治する「除菌療法」を行うと、潰瘍の再発が抑えられることがわかっています。

胃潰瘍・十二指腸潰瘍の患者さんで、病院の検査でピロリ菌に感染していることが証明されるとピロリ菌の除菌療法を行うことができます。

お薬の内容と服用期間

「プロトンポンプ阻害剤(PPI)」と呼ばれる胃酸を強力に抑える薬と、抗生物質を2種類の計3種類のお薬を飲みます。



商品名	成分名	一回服用量	種類
タケブロン30mg	ランソプラゾール	1カプセル	胃酸を抑える薬
パセトシン250mg	アモキシシリン	3カプセル	抗生物質(ペニシリン系)
クラリス200mg	クラリスロマイシン	1または2錠	抗生物質(マクロライド系)

お薬の内容は病院によって多少異なります

これら1回服用量を1日2回、1週間継続して服用します。1回に飲む量が多くて大変ですが1週間は指示どおり服用して下さい。飲んだり飲まなかったりすると、除菌できなくなる可能性があります。

除菌療法の効果

これまでの日本における成績では、除菌成功率は約80~90%です。

副作用について

副作用が出てしまう患者さんは一部ですが、代表的なものをご紹介します。

下痢や軟便、腹痛・・・軽い症状であれば、服用を中止せず7日間飲みきっていただくこともあります。

ひどい下痢や、便に血が混ざるような場合には服用を中止し、主治医に連絡して下さい。

味覚障害・・・ほとんどの場合、服用中止すればもとに戻ります。

発疹・痒み・・・薬に対するアレルギー反応の可能性があります。このような症状が現れた場合には服用中止し、主治医に連絡して下さい。

ペニシリンアレルギーなど抗生物質に対しアレルギー反応が出る方は予め申し出て下さい
上記以外にも何か気になる症状があれば遠慮なくご連絡下さい。

その他の注意事項

- 一週間の除菌治療が終わっても、継続して胃薬等の服用が必要な場合があります。除菌治療終了後はどうするのか、できれば主治医に確認しておきましょう。
- 除菌治療に使うお薬と相互作用があるお薬があります。服用している薬がある方はご相談下さい。

